

第2回伊方町学校再編検討委員会の協議結果(概要)	
開催日時	令和4年3月22日(火) 18:55～20:46
出席者	【委員】22名
協議事項	<p>(1) 第1回検討委員会の概要報告、確認</p> <p>(2) 学校の適正規模等の考え方について</p> <p>(3) 意見交換</p> <p>(4) その他</p>
協議内容	<p>(1) 第1回検討委員会の概要報告について</p> <p>→(事務局から)第1回検討委員会の協議内容について、事務局で記録し取りまとめた概要を報告し確認する。</p> <p>(意見交換)</p> <p>・地域の意見聴取を行って、今後の再編計画を検討してほしい。</p> <p>→(事務局から)2年前に区長・副区長を中心にアンケートを取っている。必要があれば再度アンケートを行う。</p> <p>(2) 学校の適正規模等の考え方について</p> <p>→(事務局から)伊方町の学校の状況、国の法的標準、近隣市町の事例、通学距離、統廃合のメリット・デメリット、平成23年時の伊方町の学校再編検討委員会の基本方針について説明し、意見交換の上、別紙のとおり決定。</p> <p>(意見交換)</p> <p>・中学校において今後、複式学級になるのか心配である。</p> <p>・複式学級の解消について学校規模の基準が一人歩きしないよう、通学等困難な場合はその限りではないことを共有する。</p> <p>・令和2年度に実施した、子どもたちのよりよい教育環境について考えるアンケートにおいて、6割以上の方がすぐに又は将来的に再編が必要であるとの結果を受けて、本委員会の設置に至った事を再確認。</p>
決定事項	<p>①再編検討委員会による学校視察を実施する。</p> <p>町内の学校施設の状況や、複式授業の参観、学校間の通学距離時間等を把握するため。</p> <p>②伊方町が目指す現実的な学校規模について決定。(別紙のとおり)</p>

(別紙)

伊方町が目指す現実的な学校規模

伊方町教育委員会再編検討委員会 3月

望ましい学校規模について

将来的な児童生徒数の減少、学校施設の課題、統廃合におけるメリット・デメリット等で総合的に判断した場合、学校の活力を維持・発展させるためには、適正な学校規模であることが望ましく、そのために学校の再編が求められているといえます。

また、本町は佐田岬半島に位置しており、東西 37 km、南北の最大幅は 6.2 km、最小 0.8 km で、町の中央部は半島特有の低い山地が馬の背のように東西に連なっています。このような地形から約 55 の集落が点在し、集落間の距離は隣接するものから遠距離と様々に分布しています。このため、児童生徒の通学にはスクールバスが必要不可欠であり、現在は旧町単位ごとに運行され、町全体では 17 路線・17 台のスクールバス等が児童生徒の通学の手段となっています。

したがって、このような通学手段や通学時間、各地域の特性・実情等を考慮し、伊方町としての望ましい学校規模について、以下のとおり整理し示すものといたします。

①複式学級が解消する児童生徒数となる学校規模

＜小学校における望ましい学校・学級規模＞

クラス替えの可能な 1 2 学級以上の規模が適正であるが、現在の町の状況では、1 学年 1 学級が最大であり、今後も児童生徒数は減少していくことが予想される。このことから、通学時間や通学距離等に無理があり、統合が困難な場合を除いて、複式学級を解消することができる 6 学級以上の規模が望ましい。

＜中学校における望ましい学校・学級規模＞

学校規模について、適正規模は 1 2 学級以上であり、最低でもクラス替えの可能な 6 学級以上の規模が望ましいが、現状では生徒数が最大の学校においても生徒数の減により 1 学年 1 学級となってきている。

よって複式学級を解消することができる 3 学級以上の規模が望ましい。

②クラス替えのできる児童生徒数となる学級規模

できるだけクラス替えのできる学校規模を目指すことが望ましいが、やむをえず 1 学年 1 学級となる場合であっても、少人数での活動において効果的とされる 4～6 人の班編成で 3 班以上となり、班替えによる学級活動の活性化が可能な学級規模が望ましい。